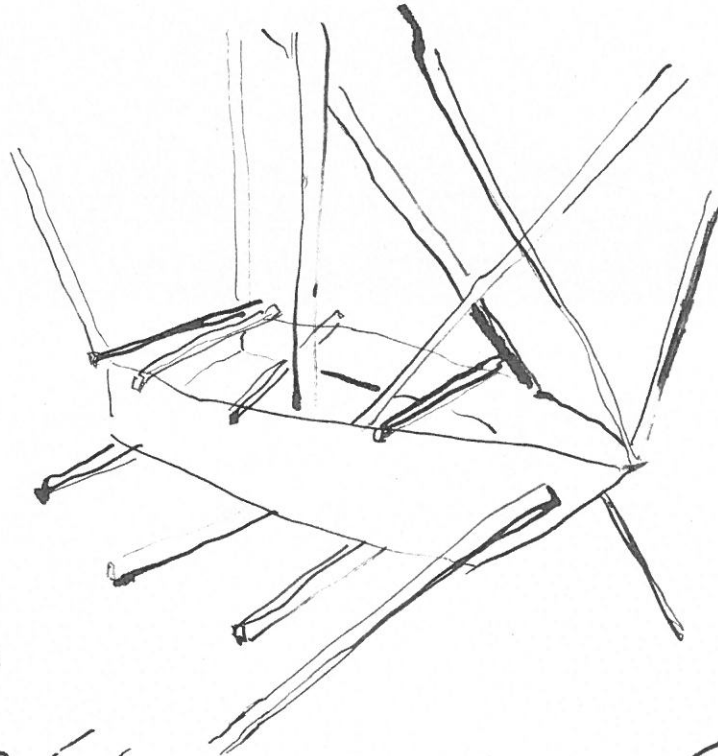
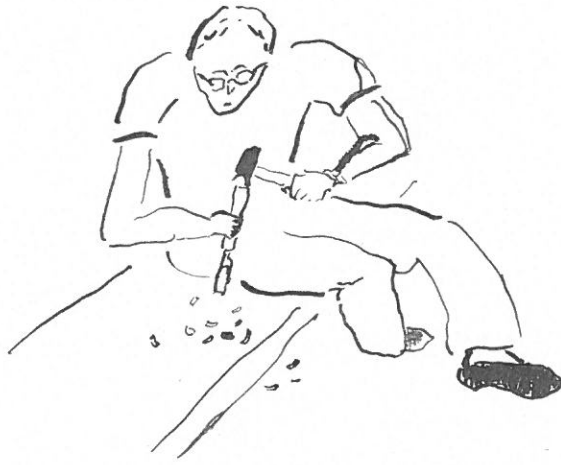


ayubune

舟を作る

春、美術館の1階の窓を開放して、舟をつくった
亀岡、保津川でかつて鮎漁に使用されていた鮎舟
失われようとしていたその舟の存在と技術を、
アメリカ人の船大工が見つめなおした
彼のもとに集まった人たちがともに完成させた舟が、
静かに、美術館に停泊する



Illustrations by Izumi Shokawa

2014年6月28日(土) - 10月13日(月・祝)

開館時間：10:00 - 18:00

休館日：月曜日・火曜日（但し、祝日の場合は開館） ※お盆休み8月13日(水) - 15日(金)

入館料：一般400円 / 高大生200円 / 中学生以下無料

船大工：ダグラス・ブルックス

参加者：大槻太介、大槻陽介、奥村基、千藤祐介、豊田佳生、内藤正隆、南真祥

ドキュメント映像：松永大司（映画監督）

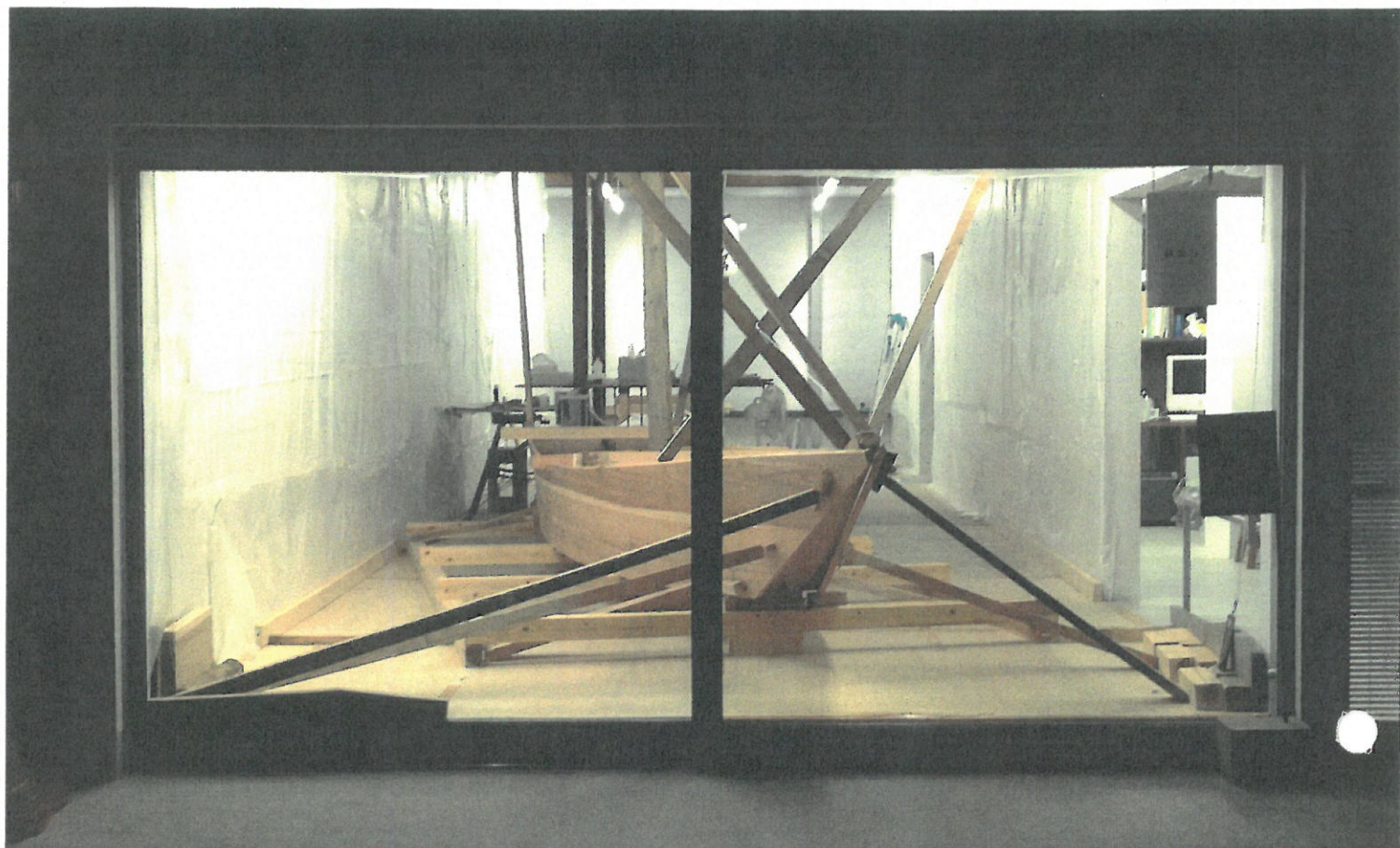
主催：みずのき美術館

助成：日本財団

協力：NPO 法人京都 ARU、保津川游船企業組合、七谷川木材工業社

みずのき美術館





5月、みずのき美術館は和船を作るための工房となりました。

アメリカ人の船大工ダグラス・ブルックスと、彼のもとに集まった7名の青年たちが約3週間かけて復元させた「鮎舟」を、映画監督の松永大司によって撮影されたドキュメント映像とともに紹介します。

関連イベント

● トーク 6月28日(土) 14:00-16:00

ゲスト：ダグラス・ブルックス(船大工、研究家) 山内博(船大工、保津川遊船企業組合)

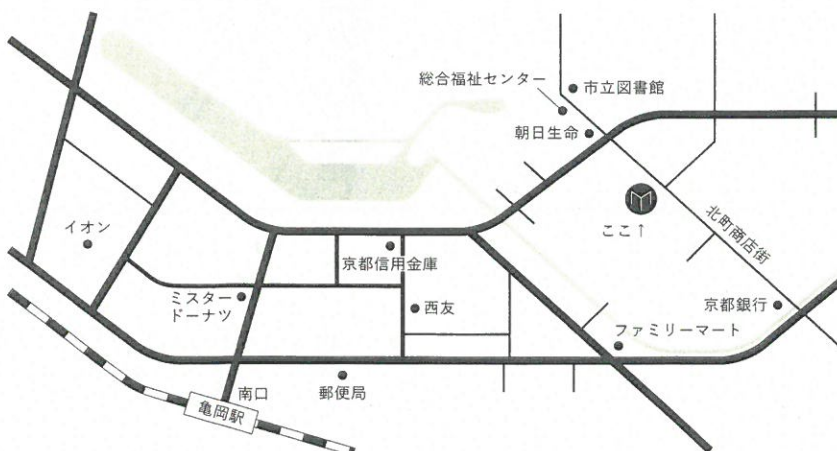
聞き手：奥山理子(みずのき美術館)

トークの後、レセプションパーティーを予定しています。

● 進水式 6月29日(日) 13:00- 雨天時は翌30日(月)に順延

会場：保津川大橋付近 ※29日は、美術館に舟を展示しておりません。

*関連イベントの詳細は当館へお問合せいただくか、Facebookページにて発表いたしますので、そちらでご確認ください。



ダグラス・ブルックス Douglas Brooks

船大工、木造船専門の研究者、ジャーナリスト。1960年生まれ、コネチカット州ディーンリバー出身。同州ハートフォードのトリニティ・カレッジ卒業。専攻は哲学。また同州のミスティック・シーボート博物館にて、ウィリアム・カレッジのアメリカ海洋学のコースを修了。博物館や個人の所蔵する伝統的、木造船の建造を専門とする。1985年から1990年まで、サンフランシスコの国立海洋博物館専属の船大工を務めた後、日本と全米各地の博物館のために木造船を制作している。1990年当初来日した際、たらい舟に興味を持ち、1996年藤井孝一氏に弟子入りした。この他、千葉県浦安市、東京都江東区、青森県東通村にて、船大工のもとで和船を建造。2002年から2003年にかけて一年間、日本で和船建造の研究をするための助成金をフリーマン財団より授与された。

松永大司 Daishi Matsunaga

映画監督。1974年生まれ。大学卒業後、矢口史靖、橋口亮輔監督らの作品に俳優として出演。2001年より監督活動を開始。友人の現代芸術家ビュ〜びるの8年間の軌跡を追ったドキュメンタリー『ビュ〜びる』(11/ロッテルダム国際映画祭ほか正式招待)で劇場映画監督デビューを果たす。その他、『かぞく』(12)、格闘技ドキュメンタリー『HYBRID』(13)など。心の機微を丁寧に描き出す演出で高評価を受けている期待の新鋭。

みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18

〔JR嵯峨野(山陰)線亀岡駅南口下車徒歩8分〕

TEL 0771-20-1888 FAX 0771-20-1889

www.mizunoki-museum.org

〔Facebook〕www.facebook.com/mizunokimuseum

※美術館に駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

みずのき美術館



ayubune 舟を作る

2014年6月28日(土)～10月13日(月・祝)

「舟だ、舟を作ろう！」 2012年晩秋、ダグラス・ブルックスさんの研究発表を聞かせていただいた私は、瞬く間にその思いが体中を駆け巡ったことを今も鮮明に思い出すことができます。

漁業の再興のためでもなく、観光のためでもなく、小さな美術館での小さな企画として、舟を取り上げるというこのプロジェクトは、着想から1年半かけてようやく、完成した舟とともに皆様にご紹介する日を迎えることができました。

意識では、伝統的な手仕事の美しさを誰もが認めているものの、現実はその技術の継承は困難を極め、社会を彩る華やかな先端技術や商業性の影となり、静かにその姿を消そうとしています。社会の主流に成りえない理由もまた、たしかに存在するのでしょうか。

体に叩き込むまでの技術の獲得には、たいへんな時間を要します。そして決して華やかでない日々の積み重ねのみが、その獲得をようやく許してくれます。しかし私は、この時間をかけて体を動かしつつける過程にこそ、人間らしい「心」が醸成されていくことを確信しています。

美術館に停泊する「鮎舟」は、復元、記録という研究的な側面とともに、“舟を作る”という行為がもたらす、人と人との、あるいは自分自身との豊かな相互作用から形づくられました。ダグラス・ブルックスさんの存在に導かれ、参加した7名全員が、しっかりとこの作業をやり遂げてくれたことに、深く感謝しています。

さらには、このプロジェクトに際し、たくさんの方々のご協力がありました。

木材の手配、製材、材料の提供から、制作過程における折々の具体的なサポートと、そして何より、温かな眼差しとともに私たちを見守ってくださったことが、このプロジェクトの進行をどんなに支えてくださったことでしょう。

地元の方、そしてお世話になったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

和船作りの用語

- すりあわせ 接合したい二枚の板を特別なノコギリを使用し、擦るようにして繋ぎ目を合わせる技法。ノコギリは荒目、中目、仕上げ用など段階に応じて使い分けられ、ひとつの繋ぎ目に対し、すりあわせは何度も繰り返される。
- きごろし すりあわせの終わった後、それぞれの板の接合面をげんのう（金づち）で叩いて面をクロス。「クロス」とは接合面をげんのうでたたいて接合面の木目を圧縮させることで、水に浸けたときに圧縮していた木目が水を吸って膨張し、水を通さなくなる。
- つっぱり すりあわせを行う際の板の固定や、舟の側面を曲げる際、パーツの形状を固定するため、壁とパーツの間に長い木をかませ、つっぱり。そのため壁や梁のある天井は和船作りにおいて欠かせない。パーツとつっぱり用の木の間に、三角形の木片をかまし、圧力を調整する。
- 埋め木 船釘が打ちこまれたほぞ穴を埋めるために使用する木片。
- 航据え 航据えとはミヨシ（舳先）とシキ（船底）とトダテ（船尾）の3つのパーツが無事に据えられたときに行う儀式のことである。家の建築でいう棟上げに相当する儀式。敷き据えとも書く。
- 進水式 完成した舟を水におろすための儀式。船霊を入れる神事があり、家の建築でいう、こけらおとしに相当する。

鮎舟について

鮎舟は元来、亀岡に流れる保津川で鮎を捕るために使用されていた小さな木造船。

保津川下りで使用している船は鮎舟に似た形をしており、鮎舟を原型にしたと考えられる。

保津川下りの船も FRP 製が導入されており、現在亀岡には木造船を専門とする船大工はもういない。

協力：NPO 法人京都 ARU・保津川遊船企業組合・七谷川木材工業社

資料提供：亀岡市文化資料館・俣野広司・レノ ヴェルニエ・芝藤敏彦

展示テキスト翻訳：コヤマ麻子

展示協力：山内博・今村遼佑・金サジ

助成：日本財団

Boatbuilding Project アユブネ

会期：2014年 5月1日～18日

ダグラス＝ブルックス（船大工／木造船の研究家）とともに制作しているのは、かつて保津川で使用されていた「鮎舟」です。

保津川沿いに暮らしていた人たちにとって「鮎舟」は、鮎釣りをするためだけでなく、洪水から避難することにも使われていたようです。

約ひと月の「鮎舟」の制作過程を、ぜひお楽しみください。

Douglas Brooks

ダグラス・ブルックス

船大工であり、木造船専門の研究家、およびジャーナリスト。

1960年生まれ、コネチカット州ディープリバー出身。

同州ハートフォードのトリニティ・カレッジ卒業。専攻は哲学。また同州のミスティック・シーポート博物館にて、ウィリアム・カレッジのアメリカ海洋学のコースを受講し、修了した。

ミドルブリー・カレッジ語学学校にて日本語を学ぶ。博物館や個人の所蔵する伝統的、木造船の建造を専門とする。1985年から1990年まで、サンフランシスコの国立海洋博物館専属の船大工を務めた後、日本と全米各地の博物館のために木造船を制作している。

1990年も初来日した際、たらい舟に興味を持ち、1996年藤井孝一氏に弟子入りした。

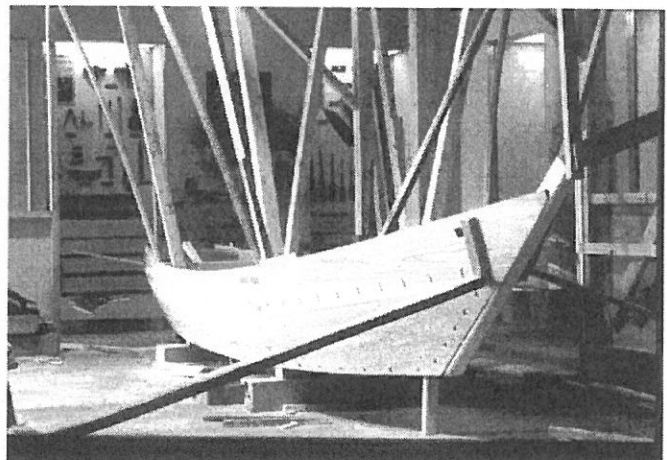
この他、千葉県浦安市、東京都江東区、青森県東通村にて、船大工のもとで和船を建造。

2002年から2003年にかけて一年間、日本で和船建造の研究をするための助成金をフリーマン財団より授与された。妻キャサリンとともにヴァーモント州ヴァージェンズに在住。

<http://www.douglasbrooksboatbuilding.com>

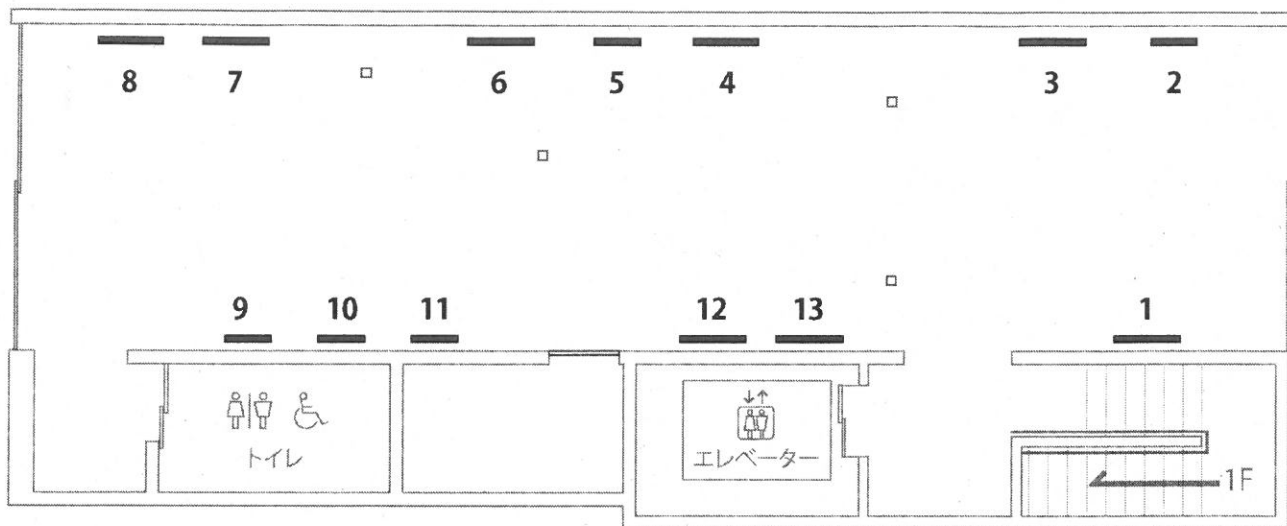


イメージ：シマイハギ（青森県）



イメージ：ペカ舟（千葉県）

2F コレクション展3 展示ガイド



作家名	タイトル	制作年	素材	サイズ (cm)
1 二井 貞信	木	1976年	クレパス・画用紙	h38.0×w54.0
2 岸ノ上 卓二	山	1988年	アクリル・キャンバス	h45.5×w53.0
3 福村 惣太夫	蓼科の水田	不明	油彩・キャンバス	h60.6×w72.7
4 福村 惣太夫	無題	1985～89年頃	アクリル・ラッカースプレー・マジック・キャンバス	h72.7×w91.0
5 福村 惣太夫	メガネ	1980～84年頃	アクリル・キャンバス	h38.0×w45.5
6 福村 惣太夫	ガラスの窯	1985～89年頃	アクリル・キャンバス	h60.6×w72.7
7 山崎 孝	オアシスとバッファロー	1985～89年頃	アクリル・ラッカースプレー・木炭・麻紙・キャンバス	h54.0×w39.5
8 小笹 逸男	蛙	1981年	アクリル・クレヨン・パネル・麻紙貼	h91.0×w91.0
9 森 照慈	女（山国は）	1999年頃	油彩・麻紙・パネル	h45.5×w53.0
10 小笹 逸男	犬	不明	アクリル・フェルトペン・キャンバス	h45.5×w53.0
11 小笹 逸男	集う猫	1980～84年	アクリル・フェルトペン・パネル	h91.0×w91.0
12 吉川 敏明	小便こぞうと池の魚	1981年	木炭・木炭紙	h49.0×w63.5
13 吉川 敏明	ひょうたん	1981年	木炭・木炭紙	h49.5×w64.5

展示作品のなかには絵画教室で西垣先生がタイトルをつけたものも含まれます。

西垣篤一（故人）… 日本画家。障害者支援施設みずのきで1964年に開始された絵画教室で講師を担当。

- 館内は飲食禁止です ● 作品の写真、動画撮影はご遠慮ください。
- 2階へ上がる際は、1階の階段の前で靴を脱いでお上がりください。